

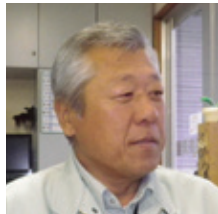


## これぞ“測量機メーカーの”3Dレーザースキャナー！

### GLS-2000 の高い機動力と使い勝手なら複雑な地形でも素早く簡単に計測

有限会社和泉測量様は、群馬県渋川市の測量会社である。トレンドを敏感にキャッチ、情報化社会の到来に向け、近隣に先駆けて GIS システムや 3D レーザースキャナーを導入するなど、新技術の導入に積極的だ。そんな同社が、GLS-2000 を導入した。

#### 今までは機動性に課題



代表取締役 奥泉 春夫 様

「弊社は 2005 年に長距離型 3D レーザースキャナーを導入し、多くの現場で実績とノウハウを蓄積してきました」。そうお話いただく同社代表取締役の奥泉春夫様に、GLS-2000 を選ばれた理由を伺った。「以前から使用しているスキャナーは、長距離まで測定できるのですが、大型な事に加え、多数のターゲットと PC が必要となり、機材の多さゆえの機動性に課題を感じていました。実際、器械点の盛り替えは 1 日に最大でも 7 か所程度しかできず、作業に 3 人は必要でした。作業効率の向上を図るべく機動力のある機材を探していたところ、GLS-2000 に出会ったのです」。

#### GLS-2000 で計測作業の効率が大幅に向上

導入の効果について、同社情報システム室室長の太田学志様に伺った。「導入して最初に使用したのは土砂崩れの現場で、災害の現況と成形後に計測してその切り盛りした作業土量を確認するためのものでした。



情報システム室室長  
太田 学志 様

現場の大きさは幅 50m 延長距離 150m とそれほど大きなものではないのですが、崩落現場は複雑な形状をしていますので、多くの器械点移動が必要です。今回は 10 か所盛り替えましたが、1 日足らずで計測を終えることができました。従来のスキャナーですと、1.5～2 日は掛かっていましたね。また、GLS-2000 は小型ですし、単体で計測できますから、作業員が 2 人で済みます。機動性の高さが、作業効率のアップに効いていることを実感しました」。

さらにもう 1 つ気に入っている点があるという。「それはレジストレーション手法として器械点・後視点法が使えることです。従来機では精度を確保する場合、タイポイント法での計測となります。多くのターゲットが必要となり設置場所の選定には

経験が必要です。これは時間が掛かるうえ誰にでもできる作業ではありません。その点、器械点・後視点法は、ターゲットが 1 つで済みますし、我々のような測量会社の人間には非常に馴染みやすい方法です。そのほか操作も簡単で、トータルステーションが扱えれば、すんなり使う事ができました。さすが測量機メーカーのスキャナーは一味違うなと感心しています」。

#### 用途に合わせてフレキシブルに対応

最後に今後の活用法について奥泉社長に伺った。「スキャナーでの計測は、突発的な依頼が多く、迅速な対応が求められます。、形状が複雑な現場では GLS-2000、広範囲な計測が必要な現場では従来機と用途に合わせて機材を使い分けて、柔軟に対応していきたいと考えています。また、石垣やダムなど、構造物の変位計測にも活用していきたいですね。」GLS-2000 の導入を機に、和泉測量様のスキャナー活用が、さらに加速していくことであろう。

ユーザー名：有限会社和泉測量  
URL：http://www.izumi-sokuryou.co.jp  
使用機種：3D レーザースキャナー GLS-2000  
ScanMaster Ver.3.0

取材協力：株式会社ソキテック  
URL：http://www.sokitec.co.jp